

3回の海外派遣教員を経験して

～これからの国際理解教育とは～

前ワシントン補習授業校

校長 齊藤 輝三

1 はじめに

それでは失礼いたします。齊藤輝三と申します。本日は岡山県国際理解教育研究大会の開催誠にありがとうございます。会場校である栗坂校長先生をはじめとした妹尾小学校の先生方、お世話して下さい先生方に心より感謝申し上げます。本日は子どもたちが生き生きと学習に取り組むところを見せていただき、大変嬉しく思いました。



今回私ごときものがお話をすることになった経緯ですが、昨年の春帰国いたしまして、帰国報告会で報告をいたしました。また、夏松山市で開催された全海研全国大会の分科会で発表しました。その時の内容でいいから、発表してもらいたいとの依頼で気安くお受けしてしまいました。国際理解教育研究会には大変お世話になりました。研究会へのお礼と、少しでもお役に立てればとの思いでお話しさせていただきます。副題は「これからの国際理解教育とは」とありますが、これからの私の話の中で皆様を感じ取ってくださることが正にそれに当たるのだと思っています。

さて、先日の朝日新聞の天声人語に次のようなことが掲載されていました。「同じことを見聞きしても、人によってまるで違うとらえ方をする。そんな愉快な作り話がある。ある企業が発展途上の地に靴の輸出を計画し、市場調査のために社員二人を派遣した。一人は「全く見込みがありません。住民は誰も靴を履きません。」と報告してきた。もう一人はこうやってきた。「無限の見込みがあります。住民はまだ誰も靴を持っていません。」・ ・ ・ものごとをよい方に、明るい方にとらえる「力」をお互い鍛えたいものだ。どうぞ皆様の素晴らしい理解力で私のつたない話から読みとっていただけるとありがたく思います。本日は短く簡潔にお話ししたいと思います。

海外派遣教員を志望する動機として、在籍年数・研究会の区切り・タイミング等を話してしましたら「あなたの都合などどうでもいいのです。」と県教委の学事の方にしかられたことを思い出します。海外で頑張っている子どもたちのために力を尽くしたいという強い思いが何よりも大切なことだと思います。

2 在外教育施設への派遣

私は3回在外教育施設へ派遣されました。

1回目はクアラルンプール日本人学校で 1987年（昭和62年）4月から1990年（平成2年）3月まででした。在籍校での勤務が長く、研究会の発表も済んだ年であったため希望しました。

2回目はフィラデルフィア補習授業校で 1996年（平成8年）4月から、1999年（平成11年）3月まででした。教頭試験を受けて、管理職としての派遣でした。文科省

の委嘱は教頭でしたが、現地では校長でした。

3回目はワシントン補習授業校で 2009年（平成21年）3月から2012年（平成24年）3月まででした。定年退職の年がちょうどシニア派遣制度ができて一期生が派遣された年でした。三期生としての派遣でした。

3 岡山県国際理解教育研究会との関わり

岡山県国際理解教育研究会との関わりですが、まず派遣前に歓送会、帰国したら歓迎会と海外派遣教員の集いを開催して下さいました。以後、研究会の活動に積極的に参加してきました。子どものための国際理解の集いを開催したり、小中学生のための世界を知る読み物「子どものための世界の国々」や「世界の国からこんにちは」を編集して発行したりしました。全国から

700名を迎えて全国大会を就実大学で開催しました。平成4年のことですから、もう20年前の出来事になります。岡山県国際理解教育研究大会の15回大会を御南小学校で開催させていただきました。



4 クアラルンプール日本人学校

クアラルンプール日本人学校では4年生と6年生を2年続けて担任しました。3年目は教務主任として、連絡調整役をしました。当時の児童生徒数は約650名でした。多彩な行事に取り組んでいましたが、現地理解教育に力を入れていました。ご覧のように当時はタマンセプテの狭い敷地であったため、マラヤ大学グラウンドで運動会を開催していました。現在はスパン空港近くの400メートルトラックがとれる広大な敷地へ移設しています。マレーシアは、赤道直下に位置し、熱帯雨林気候で、一年中夏です。人種構成はマレー系、中国系、インド系の多民族国家です。イスラム教が国教で、一日5回のお祈りを欠かしません。至る所にモスクがあり、コーランが響き渡ります。第二次世界大戦中コタバル海岸に上陸した日本軍の銀輪部隊がシンガポールを目指しました。日本語を話せる老人もいました。子どもたちの様子ですが、公立学校はモーニングスクールとアフタヌーンスクールに分かれていました。ひとなつっこい子どもたちで、目がキラキラと輝いています。好奇心旺盛でよく笑います。素直で小さい子の面倒をよくみます。幼少の頃からよく働く子どもたちでした。信心深く助け合いの精神にあふれていました。

5 フィラデルフィア補習授業校

アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィア郊外にあるフィラデルフィア補習校に、勤務してまいりました。フィラデルフィアは、アメリカ東海岸の二大都市ニューヨークとワシントンDCのちょうど中間に位置する緑あふれる歴史の町です。アメリカ第六の人口をよする大都市です。落ち着きをもった古い都市である反面、人種・経済問題で悩む近代都市でもありました。フィラデルフィア補習授業校は、創立25周年を迎える補習授業校でした。2代目の校長として派遣されましたが、一人派遣の大変さを痛感しまし

た。事務所がなく・事務員がいないという状態で、派遣教員を迎える体制が確立していませんでした。借用校との良好な関係を維持しながら、指導計画・教材準備・教員の確保に努めました。盛んなファンディング活動が行われ、学校運営に皆さんとても協力的でした。校舎を借用しているフレンズ・セントラルスクールは、明治時代に、新渡戸稲造・内村鑑三・津田梅子等が出入りをしていて、モーリス家の邸宅を学校としていました。明治時代の偉人達が集まった建物で、補習授業校の児童生徒達が、毎週土曜日に勉強できることは大変幸せなことでした。フレンズ・セントラルスクールは、我々に対し、すべてにおいて好意的に対処してくれました。学校行事としては、5月に運動会、11月に学芸会、毎学期に参観日と個人面談を実施していました。



6 ワシントン補習授業校派遣に至るまで

退職の年、シニア派遣制度ができたことを知り受験しました。文部科学省の面接試験日（11月の終わり）がこの国際理解教育研究大会前日であったため、研究大会の前日準備に会場校校長がいないというハプニングがありました。教頭先生も私が留守の理由を知らないという状態でした。12月に登録者名簿に登録されたという連絡が入りほっとしました。次の年は、6月に東京学芸大学で開催されたセミナーに参加したり、8月には鹿児島で開催された全海研全国大会に参加したり、文部科学省の登録者研修会・シンガポールで開催されたアジア大洋州補習授業校連絡協議会・タイのチェンマイ補習授業校へ巡回指導に行ったりしました。1月内定者等研修会及び管理職研修会で派遣に備えました。

7 ワシントン補習授業校

○児童生徒の現状児童生徒数は650名、増加傾向にありました。教職員数は計50名でした。○授業の様子 落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていました。幼稚部は半日ですがその他の学年は一日6時間授業を行っています。○教育課程の実態は、国語・算数・社会（小学部高学年・中学部）を文科省の学習指導要領に則り行っています。小学部低学年は合科として音楽・体育・図工・社会・理科・生活科を行っています。○保護者のボランティア 「私たちの子どもの安全確保や支援は私たちで」をキーワードに「始業前教室当番」「安全指導当番」や「図書ボランティア」「コピーボランティア」などの活動があります。○学校は保護者の代表で組織されている学校管理運営委員会により運営されています。授業料収入と政府補助金により運営されています。またバザーや商工会からの寄付などの収入もあります。○現地との関わりとしては 借用校における「インターナショナル・ナイト」などの行事に協力しています。○研修 現地採用教員の研修の充実を目指し、授業研究会及び教職員研修講演会・月1回の教員研修会・毎授業日の学習指導計画作

りを定着させています。派遣教員の授業参観により、それぞれの学級の実態を探り、必要に応じた現地採用教員を支える指導をしています。○教員の確保 教職員採用面接を年間適宜実施し、ウェイティング・リストを作成し、質の高い現地採用教員の安定した確保を目指しています。○学校行事 入学入園式（幼稚部・小学部）・特別授業・教育懇談会・運動会（9月）・遠足（幼稚部のみ）・卒園式・卒業式（小学部・中学部・高等部）○借用校舎 現地私立校（ホーリークロス校・セントルーク校・アカデミー オブ ホーリークロス校）の3校を借用しています。○学校安全管理 保護者の「安全指導当番」や教員の「安全当番」により、授業時間や休み時間の安全確保に努めています。



8 補習授業校とは

補習授業校というのは、現地校で学ぶ子どもたちを対象に、土曜日や日曜日を利用して日本の小・中学校で学習する国語や算数・数学などの科目を勉強するために設けられている学校です。学校によってはこれに社会科・理科を加えるという形態を取っています。日本の教科書を利用した日本語による授業を行い、日本帰国後、学齢相当の授業に円滑に適應できる程度の学力を保持することを目的としています。また、言語、文化を通して、日本・アメリカ両国の友好と理解を推進することを目的としています。日本人の先生により一定の指導計画に基づいて授業が行われます。ただ、授業の時間が、現地校の休日である土曜日や日曜日を利用するために、十分な時間をとることができません。また、現地校の校舎を借用して授業を行うという不便さや、指導する先生を確保することが難しいなどの課題を抱えています。児童生徒数が百人以上の補習校には政府派遣教員が配置されますが、現在北米地区にはそのような学校が31校あります。補習授業校の運営上の課題は、指導体制の確立です。児童生徒の多様化、教員の確保、施設の借用、実態にあったカリキュラムの作成等さまざまな問題があり、補習授業校の教育を推進していく上で、校長の役割は重要でした。毎週指導案を提出してもらい、授業参観をし、毎授業後、指導助言を通して先生方と常にコンタクトをとりながら資質の向上に努めました。教師と保護者との信頼関係がきちんとできれば、たいていのことはうまく行く、そのためにも質の高い授業しようと訴えてきましたが、先生方はよくやってくれました。

9 補習授業校の勤務

授業日以外の日は、指導案の検討や教材準備をします。その際、大変ありがたかったのが、全海研が作成された「補習授業校のための指導資料集」です。本日おいでいただいている滝会長が中心となって国語と算数数学の40日分・80時間の学習指導案を板書例やワークシート・漢字テスト・計算問題や年間時数配当表も含めて作成しDVDにして全補習授業校へ届けて下さったのです。大変素晴らしい指導資料集でプリントアウトして活用させていただきました。滝先生に改めてお礼申し上げます。そのほかの仕事として、学

校便りを毎週発行します。保護者や現地採用教員からの連絡や相談に対応します。在籍の管理や教育相談も職務内容の内です。毎月学校管理運営委員会に出席します。校務報告をし、質問に答えます。運営委員と共に教職員の採用面接をします。借用校との連絡を密にして問題の早期解決に努力します。



10 日本語イマージョン教育

バージニア州には日本語イマージョン教育を実施している学校があります。そのうちのひとつグレートフォールズ小学校を参観する機会に恵まれました。そのプログラムは希望者を各学年一クラス編成し、授業はもちろんすべて日本語で実施します。授業のはじめにアメリカ国旗に日本語で忠誠を誓うという珍しい光景に出会いました。各学年の授業参観をさせてもらいましたが、参加している子どもたちの学力は高く、それぞれの学年で一生懸命日本語に取り組む姿を見て、日米の子どもたちの将来に思いをはせ、大変心強く感じました。

11 アメリカの教育

アメリカの教育制度は地方分権制の原理に基づいており、教育の基準は、州の教育法で規定されている場合が多いようです。教育体系も6-3-3、6-2-4、5-3-4年制等州や学区により多様で、隣接する地域でも、学区によってその体系が異なることもありました。小学校はこうですと一概には言えないくらい多様化していました。公立と私立では、その規模から教育の内容まで全く異なるものでした。学校にかかる主な費用は国や州とともにその地域が税金として負担するので、裕福な家庭が多い地域と貧しい家庭が多い地域では、教育にかける費用が違い、子どもたちが受ける恩恵も違ってきます。いくつかの現地校を訪問することができました。学校によって教室の構造や指導のスタイルが異なり、日本の学校に慣れているものにとっては、驚きの連続でした。そんな中で、補習校で学ぶ子どもたちが、現地校の子どもたちと同じように頑張っている姿を見て感心しました。現地校の授業参観を通して、感心するところがたくさんありましたが、特に印象に残っているのは、先生が子どもをしっかりほめることです。「グッドジョブ」「エクセレント」「ナイス」「ワンダフル」「グレイト」と大げさにほめ、間違った答えを言っても、頭からだめとは言わずに「ナイスライ」と言って、次の意欲をかきたてるのです。低学年では、先生の周りに床に座って話を聞きます。先生は一人一人の名前を呼び、必ず目と目を合わせて、コミュニケーションをはかります。クラスの生徒全員が発言し、皆がその意見を聞くように促します。幼い頃から一人一人が自分の考えを述べる教育を受けているのを特に感じました。大勢の前で、自分の思ったことを発表し、人の意見もよく聞く、考え方は違っていてもそれでいいのだという教育が行われていると思いました。また、現地校の先生から、補習校で学んでいる子どもの現地校での適応の問題で連絡があり、話し合いを持ったこともあります。カウンセラー、ESLの先生、担任の先生と

3人の先生方が、一人の日本人の生徒をどのように指導していけばよいか、真剣に検討してくださっていました。アメリカの教育 第一に個性を重んじ、多様性を当然のことと評価すること。 第二に労働を通して金銭感覚を養わせ、経済的自立心を育てること。 第三に勇気を持って自分のやりたいことをやらせ、だめな場合はやり直しの道を用意し、チャレンジ精神を鼓舞すること。 第四に個人のよい点を褒め、褒めることで自信を持たせること。 独立心を育てることが特色としてあげられると思います。



1.2 アメリカでハンカチエコ

ワシントン補習授業校の高校生が提起した運動の紹介をさせていただきます。現地校でのランチの時間 大量の紙皿、紙コップ、プラスチックの食器が捨てられていく。捨てられていく紙の量は半端ではない。地球が泣いている。日本人だから「もったいない」という感情や環境に優しくしようという気持ちが植え付けられている。簡単で楽しいことそして環境のことを考えてもらおう。ハンカチを配る 「環境のことを考えて、トイレのあとはペーパータオルじゃなくてハンカチを使ってね」と書いて この取り組みのことを書いた作文が JICA 国際協力中学生高校生エッセイコンテストにおいて最優秀賞を受賞したことで、ハンカチ業者からたくさんのハンカチの寄付がありました。NHK の朝のニュースでも取り上げられました。アメリカで頑張っている生徒の紹介をさせていただきました。

1.3 補習授業校派遣教員研究協議会

派遣教員がいる補習授業校は世界に39校あります。補習授業校の派遣教員が「補習授業校における経営及び運営の実情についての情報交換や今日的課題について研究協議を行い、各補習授業校の改善・充実に資する。」ことを目的に年に一度開催されています。派遣2年目にワシントンが担当校となりお世話しました。文部科学省・外務省・海外子女教育振興財団・全海研からもご出席くださり、充実した研究協議会となりました。滝会長もわざわざおいで下さり指導助言をして下さいました。藤崎大使が記念講演をしてくださったり、大使公邸で情報交換会を開催してくださったり、思えばいろいろな会議や催しの度に大使館職員の方々には大変お世話になっています。皆さんあらゆる便宜を図り、補習校のために協力して下さいます。本当にありがたいことです。感謝の一言に尽きます。

1.4 特別授業

特別授業として多くの外部講師にお世話になりました。「日系人の歴史」第二次世界大戦中に強制収容所生活を体験された方に講話をしていただきました。スミソニアンズのレン

ウィック博物館では、「アートオブガマン」と題して、強制収容所内で日系人が作った芸術作品が展示されました。全米日系人記念碑に千羽鶴を飾ろうという取り組みに全校児童生徒で協力しました。

アメリカのプロサッカーチームワシントンフリーダムに在籍していた澤穂希選手が補習校へきて全校児童生徒に講話と実技指導をしてくださいました。澤選手来校

「夢は見るものでなく、叶えるもの。」と話してくださいましたが。ワールドカップ優勝という夢を叶えてくださいました。NHK ワシントン支局長が「ニュース番組ができるまで」と題してわかりやすく説明してくださいったり、和太鼓や津軽三味線と大正琴の演奏をしてくださいたり、空手や、「CMを作ろう」という楽しい授業をしてくださいました。



1 5 東日本大震災への支援活動

東日本大震災は未曾有の大災害を引き起こしました。

子どもたちの発案で、被災された皆様のために私たちができる限りのことをしようと募金活動とメッセージに取り組みました。募金については大使館から日本赤十字社へ、メッセージについては外務省から文部科学省へ、そして宮城県教育委員会から被災した小学校へ届けていただきました。また、バージニア州のフェアファックスカウンティのファイヤーアンドレスキューから日本へ災害救助隊を派遣して下さったことに対してお礼のメッセージを手渡しました。借用校からはお見舞いの言葉とお花・募金をいただきました。多くの方々からお見舞いを頂戴しました。ワシントンの国立大聖堂では世界中のあらゆる宗教の代表の方々が日本のために祈りを捧げてくださいました。宮沢賢治の「雨にも負けず」が朗読されたのも心に残っています。被災地において被災された人たちが助け合い励まし合っていく姿は、アメリカの人々から驚きと賞賛の声で語り続けられました。ワシントン補習授業校の以前の校長先生が岩手県大槌町の教育長をされていることが分かり大槌町の小学校へ子どもたちが集めた文房具を当時の運営委員さんが大槌町へボランティアとして参加した際に代表児童に手渡して下さいました。

1 6 手作りの補習授業校

子どもたちの学力をつけるためには教員の質を向上させることは当然のことです。現地採用教員の充実をめざして授業研究会や職員研修会を実施しました。毎授業日の学習指導計画作りを定着させ、各学級の授業参観をしました。周到的な準備をもとに限られた時間で中身の濃い授業をしている先生方の努力のおかげで、子どもたちは落ち着いた態度で大変熱心に授業に取り組んでいます。子どもたちは週一回午前中2時間、午後は4時間の補習校の授業をとっても楽しみにして来ます。昼食はカフェテリアや体育館で一斉に食べます。みんな弁当を持ってきます。昼休みはグラウンドで走り回り友達と楽しいひとときを過ごしています。いつ子どもたちにあっても楽しそうに生き生きと顔が輝いています。この子どもたちの笑顔を見て私も勇気づけられます。学校を支える大変大きな力の一つは保護者のボランティアです。子どもたちの幸せのために皆が力を貸してくれることのありがた

さを常に感謝しながら子どもたちを育てていきたいと思ひます。行事のたびに、子ども達のために献身的に働いてくださる父母の姿に感激しました。子どもと共に楽しみながらボランティア活動をしてくださる親の姿を見て、教育とは共育であるという思いが強くしました。



17 おわりに

一度も健康を害することなく、毎日元気に勤務できたことは幸せなことです。学校運営をしていくことは大変でしたが、文部科学省・外務省・日本大使館・全海研・海外子女教育振興財団・運営委員会・保護者・および現地採用教員等多くの方々との協力により無事任期を全うすることができました。借用校の校長先生をはじめ多くのスタッフの方々にも大変お世話になりました。借用校を大切に使うことで、借用校からの信頼を勝ち得ることができました。どんな小さなことでも我々一人ひとりが海外においては誠実に対応すれば、思いは通じるものです。補習授業校の運営を支えてくださった方々に深く感謝します。子どもたちが楽しそうに登校し、生き生きと学習に取り組み、充実した学校生活を送ってくれたことが、何よりも嬉しいことでした。

これからの国際理解教育についてですが、県の国際理解教育研究会や全海研の研究の方向に沿い「世界の現実を理解し、自分なりに考え行動する子どもを育成する。」ことが大切ではないでしょうか。3回の海外派遣を経験して思うことは、それぞれの国に良さがあります。日本の素晴らしさを再発見したことも多々あります。ただ、最近派遣教員の希望者が減少してきています。シニア教員派遣制度の一般教諭への拡大等の対策も講じられています。皆さんどうぞ積極的に派遣教員を希望して下さい。

それでは、ワシントン補習授業校の学校紹介 DVD を用意してまいりましたので時間の許す限り見ていただきたいと思います。ワシントンの様子と学校の様子がわかりいただけると思ひます。

以上で私の発表を終わります。最後になりましたがこの研究会のためにご尽力下さった多くの皆様に心からお礼申し上げます。ご静聴ありがとうございました。

